

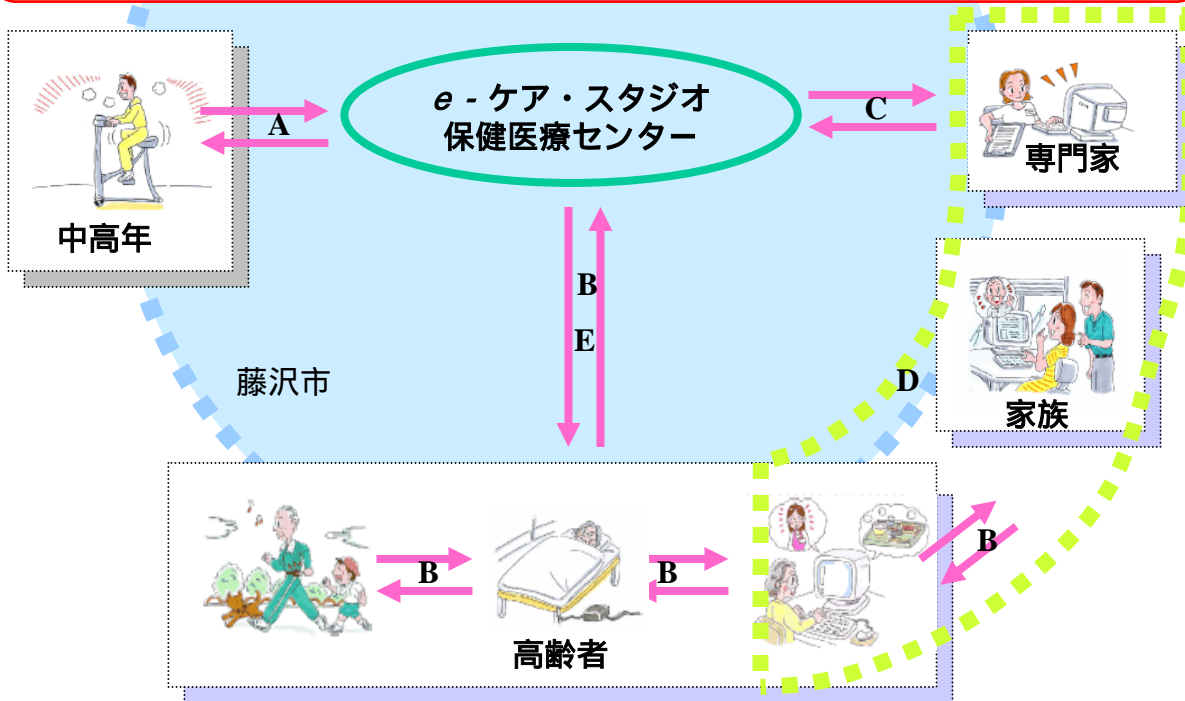
# 介護福祉分野におけるITの利活用について（15年度実施内容）

## 実験イメージ

市民は、インターネットに接続した機器やPCを利用して、専門家との情報共有や市民同士とのコミュニケーションを持つことで、健康増進を図る。

専門家（在宅介護スタッフ）は、PCを利用した遠隔学習や在宅介護情報の共有によって市民へ提供する介護福祉サービスの質を向上させる。

このようにして介護と福祉のゆきわたるコミュニティを形成する。



モニター（中高年者、高齢者、在宅介護サービス利用者・家族・在宅介護スタッフ）

対象モニター 中高年 10名、高齢者 15名 那他在宅介護スタッフなど

## 実施内容

**[A:健康増進、生活習慣病予防の検証]**市民の運動実施履歴情報をモニタリングし、専門家によるトレーニングプログラムを提供することによって、体力向上度、運動を習慣的に取り組む度合い、トレーナーの業務効率性について評価を行う。

**[B:健康維持、介護状態の悪化予防の検証]**モニターとその家族によるモニター活動レベル情報の共有化やTV会議での双方向通信によって、心の豊かさ(安心感、つながり感、見守れ感等)の向上度について評価を行う。

**[C:遠隔指導の検証]**ケア情報に関する遠隔指導を行うことによって、モニター・ホームヘルパー(受講者)の利便性や知識習得度、ケア専門家・ケアスタッフ(指導者)の業務効率性について評価を行う。

**[D:情報共有の検証]**被介護者のプライバシー情報やケア履歴等へ情報共有権を設定することによって、ケア関連情報共有時における個人情報保護のためのセキュリティポリシーのあり方、適用技術について評価を行う。

**[E:緊急性通信の検証]**IPv6通信機能の緊急通信(エマージェンシーコール)について検証し、実現に向けての適用効果、技術的課題を考察する。

**[F:社会へのPR]**

一般に向けた情報発信の強化

関係分野に係わる専門家に向けた研究発表会の開催

**[システムの部分改良]**

- ・トレーナーサポート機能(既存運動カルテの統合)
- ・情報共有権(セキュリティーポリシーの設定)
- ・QoS検証のための端末機器

# 介護福祉分野におけるITの利活用について(調査研究報告概要)

実験結果	考察
<p><b>【健康増進・生活習慣病予防の検証】</b>トレーニングに時間的・場所的制限がないため、モニタの運動意欲、運動習慣が向上し、トレーナーの業務内容、業務態勢にも効率化が図られる事を確認した。</p> <p><b>【健康維持、介護状態の悪化予防の検証】</b>活動情報について興味・関心が高まり、安心感が向上し、TV会議の活用により、身近に感じる等心の豊かさと活動が活性化され、健康の維持・向上に役立つ事を確認した。</p> <p><b>【遠隔指導の検証】</b>インターネット学習と遠隔講義の組み合わせにより、効率的な知識習得が可能となり、繰り返し行う事により、技術や知識を確実なものとし、学習意欲を高めることを確認した。</p> <p><b>【情報共有の検証】</b>モニタ、家族、ケアスタッフ間での情報共有が、ケアの質向上の手段として有用性の可能性が高い事を実証し、ケア対象者がケア履歴を参照できる事により、安心感の向上につながる事を確認した。</p> <p><b>【緊急性通信の検証】</b>IPv6ネットワークでの緊急通信網の基盤となるシステムの構築が可能であり、非緊急通信トラヒックをパケットフィルタで制限する手法について、安定性の確保と確実性確保に効果が認められた。</p>	<p><b>【健康増進・生活習慣病予防の検証】</b>IPv6エアロバイク以外の機器やITを活用したりリアルタイムコーチング等により、運動を促進しQOLの向上という本来の目的が達成されると考えられる。</p> <p><b>【健康維持、介護状態の悪化予防の検証】</b>手軽に利用できる機器の開発と併せて、十分なサポートシステムの構築が、ケア対象者と家族との「心の豊かさ(安心感、つながり感等)」を醸成できる。</p> <p><b>【遠隔指導の検証】</b>個別のケースに対応した双方向の学習や、介護現場からの携帯電話等による「映像情報による問合せ」への対応等リアルタイムで極細かな技術指導がケアの質の向上につながる。</p> <p><b>【情報共有の検証】</b>本実証システムが、安全な環境下での情報共有だけでなく、ケアスタッフの業務軽減・業務支援の可能性を持っている事から、参加者を増加させ制度の高い有用性評価の継続を期待したい。</p> <p><b>【緊急性通信の検証】</b>本検証により、時間的にバースト性のあるネットワーク上でもサービスが実現でき、サービスを受ける側に対して、安心感や見守られ感という形で提供できる可能性が見出せる。</p>

専門的知見からの評価

ケア対象者の視点、ケアスタッフの視点、基盤ネットワーク技術の視点の3点について述べます。

高齢者同士の活動の活性化を促すためには、TV会議等ITを活用した「社会への新しい参加の窓口を開く」事が有用であり、**使い時にいつでも手軽に利用できる環境を整える**ことが重要である。

ケアの質の向上には、サービス内容の透明化、標準化等IT技術を活用した情報収集が欠かせない。介護業務に必要な情報収集や整理を容易に実現する仕組みを検討し、**これらの業務に掛かる負担を軽減し、ケアそのものに掛ける時間をより多く捻出できる方策**が必要である。

インターネット上の緊急通信は介護福祉分野に限定されず、「いつでも誰でも、発信し受信する可能性がある」事から、広帯域・高速通信の普及に併せて、サービスの充実・定着化に向けて今回の実証が役立つよう期待する。